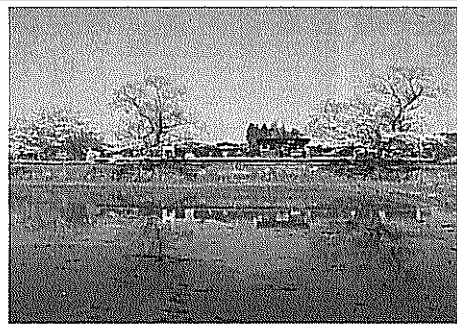


加茂里山通信

平成23年
春号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集組
発行責任者・編集長
征矢 貫造

この通信が発行される頃にはここに紹介する花がピークを過ぎてしまっているのがとても残念です。また、予算の都合上カラーでお見せできないのもとても残念です。正月の宝船の応募はがきの中に「加茂地区は元気がなさそうに見える」という五井の方からの意見がありました。そんなことはないと思います。この地区は山活動のグループの多いところではないと思います。補助金などもわずかな手弁当で頑張っています。その成果を見てください。



ここに小湊線の列車が入った「小湊」の表紙が市原ルネッサンスの努力で一番を競う撮影スポットです。

今年の菜の花の庄巻は石神の休耕田を利用したところ。県道脇から下を見下ろすとそこはあたかも天上界。しばしば言葉を飲みます。



石神の町会長経験者たちの心意気で。来年もぜひこの光景を見てください。加茂地区を横切る県道八一

ようこそ 加茂里山街道へ

の事前から見える堤の吉野桜と山で笑う山桜。山桜は街道沿いのあちこちに見ることができ

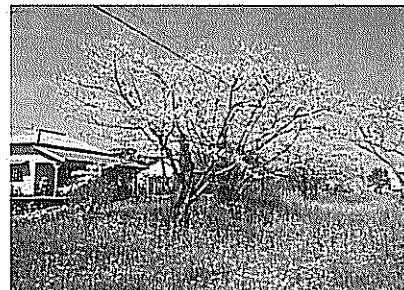


里見駅から加茂中学校に向かう道路わきの線路沿いにも咲き誇る菜の花。中学生もまた一つ里山活動。高滝神社前のダム湖に架かる橋

の事前から見える堤の吉野桜と山で笑う山桜。山桜は街道沿いのあちこちに見ることができ



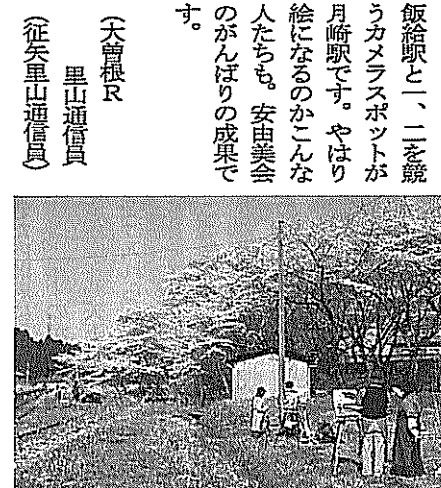
号線(市原天津小湊線)の中で唯一両サイドが谷になっているところの片側。国本一心会ががんばっています。加茂の消防署



高滝駅は昨年初めて養老東朋会が草刈りをし土を入れ種をまきました。今年のお出に来年はもっといいものにしようと思いをしています。埋もれるくらいに菜の花の中で来年は花見ができるかな。トトロの駅として



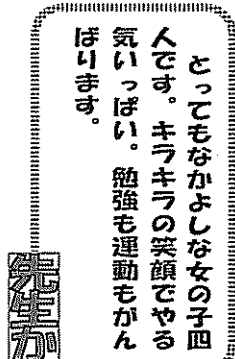
里見駅では喜動房俱樂部が活躍週末の駅構内での喫茶や販売を楽しむのしている人も多。ブルーベリーや体験収穫の枝豆を育てたりもしています。週末は大活躍。加茂桑園の講習会の主催者の一つでもあります。



元氣な子たちです。しっかり勉強して元気に里山で遊びたいと思います。



富山小学校



富山小学校



富山小学校

加茂地区の四つの小学校が四月八日に入学式を迎えました。総勢で二名の一年生が誕生しました。写真ではみなおすましですが元気いっぱい。いよいよとをしたらほめてあげて、いけなくをしたら叱ってあげて、みなで温かく見守っていきましょう。

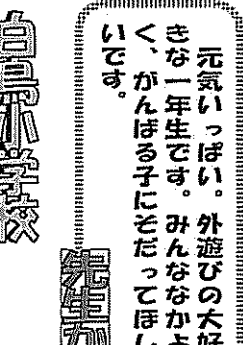
里見小学校

入学おめでとう！ 君たちはみんなの宝だよ

みんながんばれ！



富山小学校



富山小学校



富山小学校

東日本大震災に思う

ようやくあたたかな陽気となり、桜が咲き始めました。空は青く澄み、うぐいすがささずり、菜の花が咲き乱れ、まさに春爛漫となりつつあります。しかし、この同じ時に、寒さに震え、温かな食事もままならず、明日を知らない不安のうちに過ごす人々がいる。津波があらゆるものを破壊して飲み込んでいく怖さをまざまざと見せつけました。その津波にさらわれ本当に多くの人が命を落としました。最後まで避難するよう放逐を続け、波にのまれてしまった若い女性職員もいました。また、地震、津波の後に起こった福島第一原発の事故により避難を余儀なくされ、未だ帰郷できず外出せず、避難所を転々と移らざるを得ない人々もいます。

家も財産も肉親もそして職を失い、さらに避難生活のストレスで精神的にも追い込まれるという何重もの災難にみまわれた人たちの心内は、私たちの想像を絶します。そして今、放射能の影響で避難区域とされたところで機動隊や自衛隊、米軍が防護服に身を固め捜索活動と遺体の収集活動を行っています。各国の救援隊が医療活動や救援活動に携わっています。また、事故現場の福島第一原発では現場の電力会社社員、関連社員、消防士、米軍人などが放射能の恐怖に身をさらして命がけの冷却作業や復旧作業を行っています。

私たちは幸いにもこの巨大地震の影響を受けることなく日常生活を送っていますが、東海沖地震や首都直下型地震が高い確率で予測される中、明日は我が身に起こりうる災害である可能性が十分にあります。そのことを考えると、災害にあわれ苦境にあつてなお他人への思いやりを失わない人々に、強い感銘を受けます。

復興には長い時間がかかり、避難された方々が晴れやかな日を迎えるまでこれもまた長い時間を要すると思います。一時的な援助ではなく、長く継続した援助が必要不可欠です。そのことを私たちは忘れません。

大震災と津波で亡くなられた方々に哀悼の意を表し、被災され、また避難されている方々の力強い復興を心から願います。私たちに何ができるのかを常に問いつつ、いつか必ず、心から笑える日の来ることを信じ、そのことを強く祈念致します。

里山通信編集部 一同

子供たちの未来のために

中国の有名な故事成語に「矛盾」がある。多くの人が知るように、一人の男が「どんな盾でも貫き通す矛」と、「どんな矛も通さない盾」とを売っていたところ、「その矛でその盾を突いたらどうなる」と問われ答えられなかったという話である。「絶対に大丈夫」と「想定していなかった」はまさにこれである。

「最大の水位上昇が起こっても敷地の地盤高(海抜六メートル)を超えることはない」というが、一六〇五年東海、南海、東海、東海沖地震のような断層運動が併発すれば、それを越える大津波もありえる」「外部電源が止まり、ディーゼル発電機が動かず、バッテリーも機能しないというような事態が起こりかねない」「炉心溶融が生じる恐れは強い。そうなると、さらに水素気爆発や水素爆発が起これば格納容器や原子炉建屋が破壊される」「四基すべてが同時に事故を起こすこともありうる(中略)、爆発事故が使用済み核燃料プールに波及すれば、ジルコニウム火災などを通して放出放射能がいつそう莫大になるという推測もある」

これらは最近の新聞報道ではない。一九九七年に岩波の雑誌に載った地震学者石橋克彦氏の「原発震災」破滅を告げるために」と題する論文の一節である。石橋氏は国会の場でも原発震災について証言しており、その警告を意図的に無視しない限り想定外などということはあり得ない。原発震災に関しては学者や原発立地の市会議員や民間レベルからも指摘されており、すべては想定されていたのである。

二〇〇七年一月の静岡地裁の証人尋問で重要機器が複数同時に機能喪失することまで想定していない理由を問われ、「割り切った考え。すべてを考慮すると設計が出来なくなる」と述べ、三月二日に今回の事故に関して国会で「想定が悪かった。想定について世界的に見直さなければならぬ」と述べ、三月二十八日に高濃度の放射能汚染水への対応についての記者会見で「このように形で速やかに実施できるかについて、安全策ではそれだけの知識を持ち合わせていない」と恐るべき無責任な発言をしたのは、原子力利用時の安全確保の基本的な考え方を示し、行政機関や事業者を指導する役割を担い、首相への勧告権限を持つ、原子力安全委員会の委員長である。その原子力安全委員会は強力に

信発からの山

原子力発電を推進してきた内閣府に属し、もう一方の推進団体である経済産業省に属するが原子力安全・保安院である。そして経済産業省の天下り先には電力会社があり、幹部として受け入れられている。車のアクセルとブレーキの役割を果たすのが内閣府と経済産業省の手内にある。ここに至って初めて、安全委員会と保安院を独立すべきではないかという意見が政府内にも出て来た。つまり、機能を果たしていないことを認めたようなものである。

今回の事故ははつきりと人災であると思う。その安全委員会や保安院がゴサインを出した原発が地震列島の日本の海岸線に五四基稼働している。その中には地震の元となるプルトの潜り込みの真上に位置し、敷地内に活断層が走るものや、脆弱な地盤の上に建つものもある。また新聞社の調査ではどの原発も一〇メートル以上の津波を想定していない。今回の福島第一原発を襲った津波は四メートルあった。これは電力会社が矢面に立たされ非難されているが、原発推進は国策であり、それを推進してきたのは内閣府と経済産業省である。電力会社はもろにその責任を厳しく問われなければならないが、未だに正式の謝罪もない内閣府と経済産業省はもと重い責任がある。では私たちはどうか。「原発は二酸化炭素を出さないクリーンエネルギーです」「資源の乏しい日本にあって原発は必要です」「発電量の三割を担う原発を止めれば日本経済が立ち行かなくなる」「環境に優しい原発」国や電力会社のそれらの言葉が繰り返されテレビで宣伝され、雑誌の広告に載っているうちに「原発は事故が起これば怖い」というイメージが電力供給に必要でしかたないんじゃないか」と許容してきたのではなかったか。また、環境に優しいオール電化の名の下に、電力需要をさらに増やす住宅を建設してきたのではなかったか。エアコンやIH器具など電気を消費する生活を享受して、その電気の三割を担う原発についてあまり関心を持たなくなっていたのではないか。責任は私たちにも十分あると考える。

今回の事故が起これ、懸命に現場で命をかけてがんばっている人間たちがいるときに、原発のことをどうのこうのいうものじゃないと言ふ人もいるが、私はそうは思わない。あまりにも大きな力の前に、反対の声や警告が無効化され今に至ったのであり、まだ動き続けている原発が絶対に大丈夫などと誰にも言えないからである。今のままでは次も起これるからである。それに、こういうときに何も言わなければまたしても黙認することになり、黙認は消極的な賛成に他ならないからである。

多くの地震学者は日本列島が地震の活動期に入りつつあると述べている。過去に起こった大きな地震の分布図と原発の分布図を重ねた世界地図があるが、地震マークに埋め尽くされているところに原発が集中しているのは日本だけである。そして政府が発表しているのは二〇年以内の起こる地震確率で、東海沖地震は八七%、首都圏直下型地震は七〇%である。いたずらに不安をおおるつもりなど全くないがこれらは事実である。今後三〇年というのは三〇年先かもしれないが、明日かもしれない。直下型地震ですべての電源を失ってしまう可能性、あるいは激しい縦揺れで制御棒が入らないまま配管のパイプが破断してしまう可能性、それらはすべて起こりえないと原発関係者がこれまで断定していたことである。しかし、電源をすべて失ってしまった時にどういう対処方法もないという、原発が抱える最大の弱点が露呈されてしまった今、その可能性を否定できる人は少ないと思ふ。

稼働しているすべての原発を止めて徹底的な点検をし対策をとるべきである。殊にプルトの沈み込みの真上にあり、敷地内の下を活断層が走り、前には高さ一〇メートルの緩やかな砂丘しかなく、東海沖地震が予測される中で耐震性に最も不安のある静岡の浜岡原発・真下に活断層が走り、ウランとは桁違いの放射性物質を放出するプルトニウムを原材料に使い、水の代わりに水と接触するだけで爆発的に炎上し空気に触れるだけで発火する液体ナトリウムを使用している高濃度増殖炉「もんじゅ」・中央構造線と呼ばれる最大級の活断層から六キロの地点に建ち、ウランとプルトニウムの混合燃料を使用している愛媛県の伊方原発・この三つは直ちに止めてほしい。

私たちが電力の提供はゆだねても、生命や財産まで国や電力会社に預けた訳ではない。安心して暮らせる社会を残すことは大人が子供たちにしてあげなければならない義務である。将来とはそういうことが前提となつて初めて成り立ち設計できるものだからである。天災はどうしようもない部分もあるが、分かっている手を施さない人災は避けることができるはずである。大きな余震が続き、全く予断を許さない状態の福島第一原発への対応に追われる今、次は絶対にあつてはならない。

何よりも子供たちの未来のために。

(従事里山通信員)

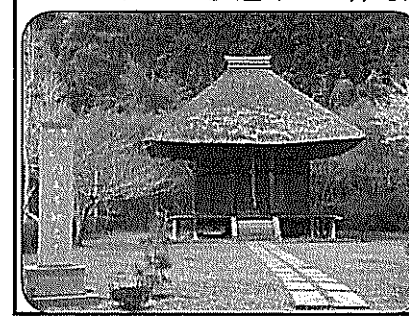
吉沢は、町会内の山あいを縦断する養老川の支流吉沢川に広がる平坦な場所に田畑、そして四十八戸の住居が点在する小さな集落です。土地のほとんどが山林でしたが、その山林もゴルフ場開発により斜面に残るくらいです。地区内の中央には一番の誇りとする「国指定重要文化財 鳳来寺観音堂」があります。十六世紀の始め頃(室町時代後期)の建立とされていますが、以前は現在の場所ではなく、昭和四十二年に解体修理が行われ、現在の場所へ移転したとされています。創建時そのものを復元しています。昔からの口伝えによると、土地の豪族土橋平蔵氏が、その居城を護るため、表鬼門に西願寺(市原市平蔵)、裏鬼門に善福寺を建立したそうです。(明治の始め廃寺になり、鳳来寺に合併された) 外見は、西願寺阿弥陀堂(国指定重要文化財)とそっくりで、表面はごく平凡な和様の小堂に見えますが、内部の構造、空間構成は禅宗様式が巧みに活用されており、その禅宗様式の程度が他の三間堂より著しく大きいことが特徴で、西願寺阿弥陀堂と共に関東地方古建築の代表的なものといわれています。

丑年と午年の晩秋の一週間は、加茂地区と大多喜町の一部に古くから伝わる三十三観音霊場めぐりとして、観音様が一行に御開帳になります。少子高齢化の進行する現在、この観音堂を先祖からの大切な文化遺産として維持し、次代を担う子供達に御開帳などの貴重な伝統行事を引き継ぎ大切にしたいと思ひます。また、中商年の集まり(仮称・いりり)を中心に炭窯を造り、荒れた山や竹林の材料による炭焼きや炭の生息する川の浄化など、常に観音堂を中心とした過疎の村の活性化を課題にし「いりり」を囲んでいます。

また、先輩から引き継がれた三山信仰の八日講や百万遍おこしん講などそれぞれが公民館で親睦を深めています。そして時折吉沢学園の入所者の元気な声が出あいに響きます。

吉沢町会

吉沢は、町会内の山あいを縦断する養老川の支流吉沢川に広がる平坦な場所に田畑、そして四十八戸の住居が点在する小さな集落です。土地のほとんどが山林でしたが、その山林もゴルフ場開発により斜面に残るくらいです。地区内の中央には一番の誇りとする「国指定重要文化財 鳳来寺観音堂」があります。十六世紀の始め頃(室町時代後期)の建立とされていますが、以前は現在の場所ではなく、昭和四十二年に解体修理が行われ、現在の場所へ移転したとされています。創建時そのものを復元しています。昔からの口伝えによると、土地の豪族土橋平蔵氏が、その居城を護るため、表鬼門に西願寺(市原市平蔵)、裏鬼門に善福寺を建立したそうです。(明治の始め廃寺になり、鳳来寺に合併された) 外見は、西願寺阿弥陀堂(国指定重要文化財)とそっくりで、表面はごく平凡な和様の小堂に見えますが、内部の構造、空間構成は禅宗様式が巧みに活用されており、その禅宗様式の程度が他の三間堂より著しく大きいことが特徴で、西願寺阿弥陀堂と共に関東地方古建築の代表的なものといわれています。



新入生歓迎餅つきから

上古敷谷里山の会と富山小学校の子供達(全校生徒、教員)の交流が行われました。今回のテーマは、新入生(男子2名、女子1名)の歓迎会です。会の面々は、古敷谷の奥深くの里山でこれまでもいろいろな趣向を凝らして活動してきました。中でもそうめん流しが子供達に喜ばれてきました。今回は新メニューとして餅つきが行われました。準備が出来たまでの時間、子供達が考えてきたいろいろな遊びで里山の会のメンバーも交え楽しい時間をすごしました。二三名という数は全校生徒としては少ないかもしれませんが、しかし兄弟のように過すには十分でしょう。みんなでやったゲームでもそれが分かれます。

「誰でしょう」ゲームを紹介しました。まず最初に回答者を選出します。今回は新入生の三名です。次は三名の上級生が札を持って前にいます。そして質問が読まれ、新入生三名が答えるの所に駆け寄り答えます。では、質問です。1年生の兄弟じゃない人は? 5年生じゃない人は? 校長先生はだれでしょう? 札は何の意



味もありませんでした。びっくりです。富山小学校ならではの答えではの答えでした。札を持っていた人が答えた内容。その他にもいろいろなゲーム等を行いました。里山の会の

メンバーがしみじみ言っていました。「こんな時代もあったんだな。思い出しても中学校までだな」

その後子供達は班に分かれ、里山を散策。上級生は慣れたもので目的地の地が分かってるようで、下級生を誘導し、れんげ畑だったり川だったりを楽しんでいました。

昼近くになり、先生方から餅つきが始まりました。昭和に作成された臼と杵を使いました。子供達が餅をつく番になりましたが、これが大変。きねなんて持った事がない。初めてバットを持った時のようにどこ

どう持つか、臼ときねを餅がくっ付いている。さて困った。悪戦苦闘の末、ヨモギ餅を大量に作りました。昼食は古敷谷ならではの漬物と雑煮、きな粉ヨモギ餅、大根おろしヨモギ餅、おしろいヨモギ餅、竹の子煮付け、わらびのおひたし等々。子供達はおいしそうにた

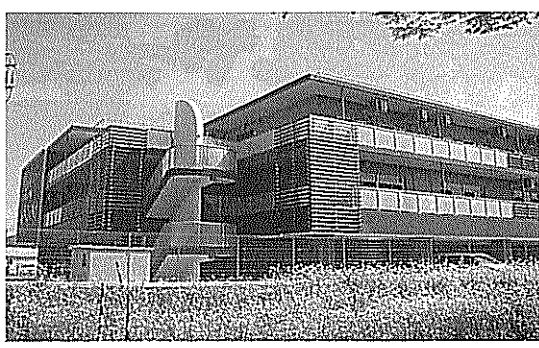
いられてくれました。子供達の里山の会の方々へのお礼はなんと落語の披露でした。みんなで分担して演じた落語「そろそろ」はしっかり内容が伝わりました。最後に新入生に上級生からプレゼントがありました。これからはみんなと仲良くしてください。

(矢代里山通信員)

オープン 加茂里山留の老人ホーム

高滝小学校の前に特別養護老人ホーム「緑の郷」がオープンします。そこで老人ホーム大研究!

特別養護老人ホームと老人保健施設の違いについて
◎特別養護老人ホーム(経営母体が福祉法人)
身体上または精神上の障害のため、ねたきりや認知症



等により、食事・排泄・寝起き等日常生活の大半にわたり、常時の介護を必要とし、介護保険で「要介護1」以上の認定を受け、入所を希望する方の施設です。ただし、常時医師の手当てを要する方は入所できません。

◎か所

◎老人保健施設(経営母体が医療法人)

疾病、負傷などにより、ねたきりの状態にある高齢者またはこれに準ずる状態にある高齢者で、介護保険で「要介護1」以上と認定された方に、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練、その他必要な医療を行うとともにその日常生活上の世話を行う施設です。

(大曾根R里山通信員)

いちばう自然療養所



四月一〇日二時より、市原市民の森にてチーソーカー、ビンゴのオークションが行われました。売り上げの全額を仙台に住む仲間達にメッセージボードと共に手渡し、その仲間の手から義援金として寄付してもらおうとす。進行役の栗田さんは自らも買い手に名乗りを上げるほどの熱の入れようでした。

(大曾根下里山通信員)
(矢代里山通信員)



被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を祈念いたします。
広告主一同

備長炭焼き鳥
居酒屋 いなご
市原市養老960-1
TEL 0436-98-0175

房総・養老溪谷の
地酒お土産は
養老溪谷駅前
角屋商店
養老溪谷観光協会窓口
市原市朝生原181
TEL 0436-96-1108
FAX 0436-96-0052

愛車のある幸せを暮らし
応援します!
安全・安心
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神227
TEL 0436-96-0482
FAX 0436-96-1293

売り上げの1割を災害復興の義援金とします
皆様と共に歩む観光
バス釣りシーズン到来!
高滝湖観光企業組合
TEL 0436-98-1277

フィンランドからの理想の住まい、ホンカログホーム
モデルハウス公開中!
開館時間 10:00~17:00
木製サッシの遮音・断熱効果
床暖房の快適さをご体験ください
HONKA
www.honka.com
ホンカ房総 大陽工業株式会社 ログホーム事業部
TEL 0436-95-5641 FAX 0436-95-5642 http://www.honka-bouso.com

人と環境が一体となって大切な未来へ
自然環境と人間との調和を目指して
杉田建材株式会社
本社 市原市万田野26 TEL 0436(98)1311
市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)0511
南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)0111
URL http://www.sugita-group.com/

加茂くわぶ だより

伊達直人さんへ

桜が咲き、家々の庭先には色とりどりのすみれや水仙が花開き、小湊鉄道沿線では、ゴッホのひまわりを超えるほどのあでやかな黄色の菜の花が咲き乱れています。加茂地区は春真っ只中です。

東日本大震災からひと月、被災地はまだまだ震災の痛みも癒えず復興もままならないようですが、まちがいなく春は訪れ桜も咲くことでしょう。ほんの少しの間だけでも心休まる事が出来るようにと祈るばかりです。

さて、震災後日本人はもとより外国の方々からも多くの支援が被災地に寄せられています。著名人や有名人がこぞのように多額の義援金を寄付されているようですが、本来義援金や寄付金というものは金額の多寡を問わず匿名でされるものではないかと思つています。皆「伊達直人」でいいんです。出する人がいても出さない人がいてもいいと思います。復興を願うことだって亡くなったひととひとの冥福を祈ることだって立派な支援の一つだと思います。一人ひとりが自分の信念のもとに、今出来ることをすればきっと立ち直れるだろうし、何年後かの満開の桜の下には笑顔もどつてくる。そんな気がしています。窓から見える桜は今年も満開です。

加茂くわぶの語り部

A「どっかの都知事が花見の自粛つーけどよー。あんでんかんでん自粛しやー経緯ちやーもんが動かかねーわ。」
B「ずいぶん、こん難しいこと、そいてつけんが、どうせどつかんうけりだつて。そつて結局はどうすつだい？」

A「天気もいいことだし、花も満開じゃーいつぱいやりてーとだれんど、こんご時世じゃー今年はやめつべーか」
B「そりやーさんねだつて。今日はおこつてんいとおもつて、農協でせにおろしてきたのんや」
A「そーいうことは、はーそいてくんねーとおいねーつ。じゃーいつもんみせに7時いつてんかん。あとでまったく調子のいいA君なのである。」

(言沢里山通信員)

シニアパワー全開！

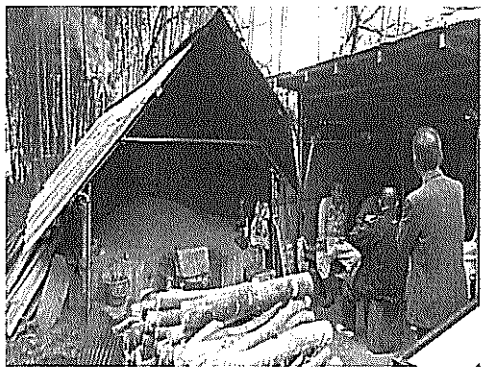
あんでんやってみっか



朝生原有志の会

黒川の私有地の杉の木を切り払い桜の苗木を植えました。河津桜を三〇本、しだれ桜を一〇本。将来、黒川堰の水面に映る桜が楽しみです。ここにも桜の名所ができるかな。花見のためにもどんどん大きくなってほしい。

(大曾根里山通信員)



吉沢の炭焼きグループ

どろく作りと炭焼きは昔から天下の楽しみといわれます。今年から仲間が増えてこれで三回目。まず親睦が目的で、さらにいらぬ木や竹の整理ができて里山がきれいになり、炭と木酢液が売れば一石三鳥とのねらい。売れたお金で酒でも買ってさるに親睦を深めたらサイクル回りすぎ。

(大曾根下里山通信員)

魚屋の戯言

パジャマを着ない女神さま

仕事をしながら自宅で母親の介護をする生活が始まって三年が過ぎた去年の五月の事でした。いつものように朝食を用意して母を食卓に座らせても食べようともしません。それどころか話しかけても反応がありません。救急車をお願いして病院に行くことになったのは三回目の脳出血でした。先生の説明では出血量が多く、かなりのダメージを受けています。これからは自分の意思で何かをする事はできません。歩く事はもちろん、話す事・食事をとる事もできないでしょうと言われました。このままでは栄養がとれないのでお腹に穴を開けてそこから直接月に栄養剤を注入するつもりでしようとの事でした。入院するかもこのまま自宅介護を続けるかの選択を迫られ、姉たちと相談して出した結論は自宅介護でした。それはケアマネジャーの助言で自宅まで往診して下さる先生に巡り合えた事が理由に挙げられます。以下、在宅医療にお詳しく精力的に活動されているその先生の文章をご紹介します。

在宅医療について

枯れ葉がハラリと落ちるように生きることが終わると痛くも苦しくありません。人間も自然の一部ですから。家族が普段どおりの生活をしている中、朝になり孫が「行ってきます」と学校に行き、大人たちがいつもどおり働きはじめ、年寄りがその心配を感じながら、いつの間にか天に召される。在宅医療ではそのような美しい光景をたくさん拝見しました。

もちろん早期発見、早期治療で病気を克服できれば素晴らしいことです。しかし病気が闊つていくと、病気で不自由だつたり苦しかつたりすること、自分が幸せであることが全く別のことだという事を忘れてしまいがちです。病気が治つたほうが良いのですが、治らなくても今日は昨日より心が軽やかな日だと思つて今日が最後の日だと思つて出かけるのは何となく思ふことができます。そう思ひ出せるのは何となくでも自宅です。家では窓からの景色、ペットの鳴き声、料理する音や匂い、好きな写真や音楽、子供の笑い声、少量のお酒などが、どんなに痛みを和らげてくれることか。頑張り続けるのは体に良くないのです。病気に負けないで頑張りないうちやという状況から気持ちが解放されたほうが痛くないのです。入院すると急激な環境の変化に順応できず、一時的に訳がわからなくなり認知症と診断されてしまうお年寄りが、退院し家に帰り一息落ちると、あつと言ふまに長老の威厳を取り戻し、今まで人生の多くの困難を乗り越えてきたように、自分の人生の締めくくり方について結論を出すことがあります。私たちは必ずその指示に従います。

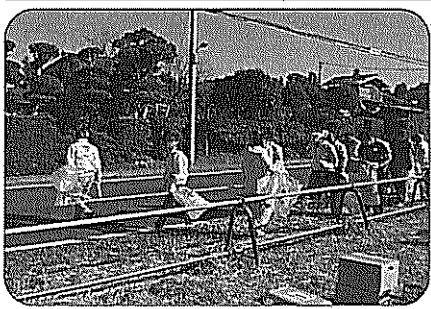
とがあります。私たちは必ずその指示に従います。癌のような治りづらい病気は特に在宅医療が役に立ちます。自宅で暮らすとお金もかかりませんので、次の治療について冷静に考慮することが出来ます。入院中に病室で一瞬立ち止まっている時には見失っていた生きる意味を取り戻すことが出来ます。自宅での療養では急に苦しくなったり、熱が出たら困るし、心細いと思われれます。私たちは訪問初日に携帯電話の番号をお渡しして、「いつでも心配な時は呼んでください。必ずすぐに来ます。日曜、祝日も夜中でも、いつでもかまいません。私たちはパジャマを着て寝ていませんから」とお伝えします。実際そのようにして二十年以上暮らしています。

文中の「私たちは必ずその指示に従います」の部分原文でも太字で綴られています。

こんな優しい考えをお持ちの先生やパソコン提げた女神さま、エプロン姿の天使さまに見守られながら母は安心して表の表情のまま安らかに旅立ちました。介護しながら仕事をする生活はこれで終わりました。約四年の間に大変だと思つた事は沢山ありました。しかしつらいと思つた事は一度も無かつたし、自宅介護を選んだ判断にも悔いはありません。ケアマネジャーに説明された通り、最後まで辱創がでなかつたのは自宅だつた故と少しだけ誇りに思っています。この数ヶ月、魚屋の戯言と題しながら介護のことばかりになってしましました。お付き合い頂いた読者の方々に深くお礼を申し上げます。有難うございました。

(鈴木里山通信員)

高滝ダム周辺を清掃活動



本格的な春の訪れを前に、市原市水道部の職員及びその家族四十二人と市原市管工事協同組合四十二人が、高滝ダム周辺や隣接する市道の清掃ボランティアを行いました。清掃活動は昨年に続き、今回で二回目の実施となりました。これは水源の保全と地域貢献活動の一環として行われました。安全でおいしい水道水の供給のためにあります。

(大曾根下里山通信員)

今年もやりました！

加茂地区カラオケ大会開催される



応募総数90通！ありがとうございました！ 目標の成果をいかに発揮！

編集後記

商工会議所の職員でこの里山通信の事務方であり、メンバーでもあった北総一郎氏がこの三月をもって会議所を退職いたしました。私たちは「北さん北さん」と呼び、酒の仲間としても親しくしてきました。冷静な状況判断で通信の会議も着陸点を見つけてくれました。青年部のころからの付き合いでずいぶん長くいろいろなことに駆り出していました。本当にお世話になりました。通信ではまだ若い霜崎が北さんの後を継ぎます。応援よろしく願います。(征矢里山通信員)

情報提供・取材依頼は近頃の通信員へ。メールでも受け付けます。紙面及び記事に関するお問い合わせは左記へ。
0436(22)4305 担当 霜崎
Eメール shinozaki@cc-i.or.jp

次回は7月25日発行予定です